



飾らない魅力 キーワードは「自然体」

4月24日から、本格的に丹波市が舞台の映画の撮影が開始されています。近兼拓史監督の下町の詩シリーズという、兵庫県を舞台にした人情映画3部作で、3作目のテーマはまちおこし。

メインキャストの1人に丹波市在住の武田丹音さんが選ばれました。丹音さんに思いを語ってもらいました。

(C) 映画「恐竜の詩」製作委員会

市在住の新人映画デビュー

丹波市を舞台にした映画「恐竜の詩」のメインキャストの一人に選ばれた、現役の大学生で、新人の武田丹音です。

今年の1月、市の公式LINEで製作委員会が出演者を公募されていることを知り、応募しました。一般約200人、プロ約100人の応募の中から、抜擢されたと聞いたときにはとても驚きました。演技の仕事をするのが夢だったので、チャンスをいただき、感謝しています。

自分らしさを忘れずに

抜擢を聞いたときは、本当にうれしかったですが、私で務まるのかと悩みました。監督から「そのままでいてくれたらいいんだよ」と、言っていただけでも、ますます自信をなくしてしまう悪循環に陥っていました。監督をはじめ、周囲の方の励ましで、無事、出演を決断できました。ありがとうございます。

監督の「自然体で飾らない姿が丹波市を舞台にした作品に合うと感じた」という言葉を大切に、自分らしさを忘れずに演技が出来ればと思っています。

夢への一歩を大切に

演技の仕事がしたいと思ったきっかけは、学校の文化祭の劇への出演です。観客の方が涙されるのを見て、私の演技で心を動かされる人がいるのかと、感激したことをはつきりと覚えています。

高校生のときに地元の劇団「樵の実」に所属していましたが、プロの方と一緒に演じるのはこの映画がはじめてです。監督や共演の先輩方からの指導を第一に、一所懸命努めたいと思います。

ふるさとの魅力を伝えたい

オーディションに応募したのは、自分の住む大好きなまちが、たくさんの人に知ってもらえるチャンスだと思ったからです。

私にとって丹波市の最大の魅力は四季折々が変わっていく景色。景色を楽しみながらウォーキングするのがとても楽しい時間です。映画を観る方々に魅力が伝わるようにがんばります。

これから夏の撮影本番に向けて製作が進行する、丹波市が舞台の映画にご支援とご協力をお願いいたします。私への応援もいただければうれしいです。

